

多方面からの提言を受け、46年の歴史を持つ本大会の価値を再定義し、今後の運営の指針となる「運営ステートメント」を作成いたしました。

---

## 大会運営に関するステートメント: 佐賀国際バルーンフェスタの未来に向けて

46年の歴史を誇る本大会を将来にわたり継続していくため、我々が守るべき本質的な価値と、今後の運営方針をここに表明します。

### 1. 我々のアイデンティティと目的

1980年の開始以来、本大会は3度の世界選手権を開催するなど、日本を代表する熱気球大会として歩んできました。我々の活動の根幹は、以下の2点に集約されます。

- **競技の追求とファンの拡大:** 熱気球競技そのものが持つ本質的な価値(一斉離陸の臨場感や競技者の緊張感など)を評価し、愛好家とファン層の拡大を目指します。
- **地域活性化への貢献:** 持続可能な地域活性化に寄与し、社会から信頼される大会であり続けます。

### 2. リスク管理と社会的責任

過去の重大事故の教訓、および現代のSNS社会における情報拡散の影響を鑑み、徹底したリスク管理を行います。

- 選手の競争心のみで危険を冒すことは、熱気球競技全体のイメージ低下に繋がりがねず、厳に慎みます。
- 本大会は最高峰の技能発揮の場であると同時に、ビギナーパイロットにも門戸を広げ、愛好者の底辺拡大に寄与することを目的とします。
- 大会存続に関わる最重要課題として、着陸地を提供してくれるランドオーナーとの良好な関係保持を目指していきます。

### 3. 競技運用における「安全」と「公平性」

タスク設定においては、「安全かつ円滑な大会運営」を最優先事項としています。気象環境、競技者、ランドオーナーおよび運営役員の負担を総合的に判断した結果であることをご理解ください。

#### 4. 意思決定の多様な視点

競技委員長(イベントディレクター)の判断は、競技者の視点のみならず、公共機関、地元市民、協力団体、運営スタッフ、ランドオーナーそして観客といった、バルーンフェスタに関連する地域社会・団体を含めたすべての関係者の視点に立った決定です。今後も競技の質の向上と、来場者に感動を提供できるイベントづくりを両立させていきます。

---

#### 今後の展望

佐賀バルーンフェスタ組織委員会は、今後も大会全体の質の向上に努め、選手による最高水準のパフォーマンスと、来場者への深い感動を提供し続けます。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

#### 【参考資料】

開催年	競技実績(フライト/タスク)	特記事項
2019年	7フライト/18タスク	
2023年	7フライト/20タスク	
2024年	2フライト/7タスク	大雨によりイベント中止
2025年	5フライト/11タスク	